

文部科学省委託事業（2018年度～2020年度）「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
～地域活動による高齢者支援・介護支援の学習プログラムの研究開発事業～

地域課題学習プログラム



教員用 学習支援ガイドブック

Ver.202103

目次

はじめに	2	5-6.チャレンジ(学習教材)~例示~	21
1.なぜ地域課題学習プログラムを学ぶのか	3	5-7.達成課題に対する自己評価の指標(評価ルーブリック)	23
1-1.地域社会に根差した生活支援技術と 介護過程の展開力の養成	4	5-8.成績のつけ方	24
1-2.学生が地域社会に入っていけるようになることで	5	6.全学生共通の課題	25
1-3.まずは先生も地元の暮らしを楽しみましょう!	6	6-1.全学生共通の学習目標(はじめの一步)	25
2.地域課題学習プログラムをどう学ぶのか	7	6-2.全学生共通の課題自己評価の指標(評価ルーブリック)	26
3.目指すべき介護福祉士像	8	6-3.学習の楽しみ方(学習支援例)	27
4.学習支援における留意事項	9	付録(別紙) ワークシート①~⑨	29
4-1.教員の心構え 行動指針	9			
4-2.学生に対する教員の支援活動	11			
5.学習教材(学生用ワークブック)について	14			
5-1.学習目標	14			
5-2.学習方法	15			
5-3.学習構造図	18			
5-4.6つのアクション領域とできようになること	19			
5-5.6つのアクション領域と達成課題	20			

はじめに

地域社会における中核的な役割を担える介護福祉士の養成と介護福祉養成施設の存在価値の向上を目指すことで地域社会が活性化され、誰一人として取り残さない持続可能な地域社会の実現に貢献するために地域課題学習プログラムは生まれました。本学習プログラムが掲げている目的は、SDGsが掲げる17のゴール(目標)とも深い関係にあると考えています。

学生と教員(養成施設)と地域社会との関係性に焦点を絞りながらも、教職員の皆様には多角的かつ柔軟な視点を持って、学生と共に地域課題学習プログラムを楽しんでいただければ幸いです。



<https://www.unicef.or.jp/sdgs/>より出典

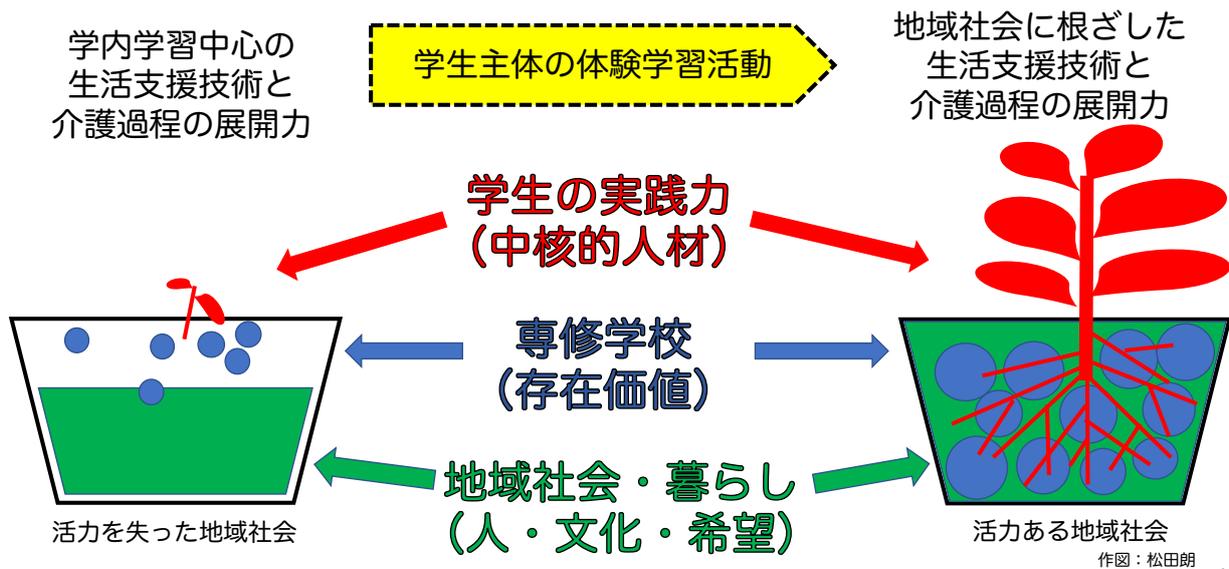
1. なぜ地域課題学習プログラムを学ぶのか

まずは、学生が自ら進んで地域社会に入っていけるようになるためにこの学習プログラムを学びます。

- (1)地域社会に暮らす方々には体験学習のご協力を賜り、貴重な知識や知恵を学生に授ける役割を担っていただくことで、**生きがいづくりに**貢献できます。
- (2)地域社会に支えられた体験学習を通して学生の**自己有用感**が育まれ、**自己肯定感**が高められます。
- (3)**学習の主導権**が学生に委ねられることで、学習に対する安心(安全)感が持てます。
- (4)介護と介護福祉士が地域社会で**身近な存在**になります。
- (5)学校も地域社会と共に**地域福祉活動の拠点**になります。
- (6)地域社会に暮らす方々と学生(卒業生)が、**共に生きる地域社会**を実現できます。

3

1-1 地域社会に根ざした生活支援技術と介護過程の展開力を養成



4

2. 地域課題学習プログラムをどう学ぶのか

- ・教員の支援のもと、一人ひとりの学生の個性や希望に合うように学習教材を組み合わせて学習を進めます。
- ・まず初めに学生は、地域社会に入っていくための事前授業を受けた後、全学生共通の課題『自ら進んで地域社会に入っていける』に挑戦します。
- ・ワークシートを活用して、一人ひとりの学生に合うアクション(目標)の設定や目標達成のためのチャレンジ(学習教材)を選択して学習を進めます。
- ・どのアクション(目標)の達成に向けて、どんなチャレンジ(学習教材)を活用しているかを「学習の記録」に残すことでいつでも学習過程を確かめることができます。

7

3. 目指すべき介護福祉士像

2018年度に改正された介護福祉士養成カリキュラムにおける「求められる介護福祉士像」に基づき以下の人物像を目指します。

- ①豊かな感性で地域社会に暮らす人たちと楽しく会話ができる人。
- ②自分の特性（得意なこと・できることなど）を地域社会のために役立てることができる人。
- ③同じ地域社会に暮らす生活者として地域住民と協働関係をつくり、共に生きることができる人。
- ④一つの目的（目標）に向かって根気よく継続して計画的に挑戦できる人。
- ⑤地域社会の未来像を描ける人。

8

4. 学習支援における留意事項

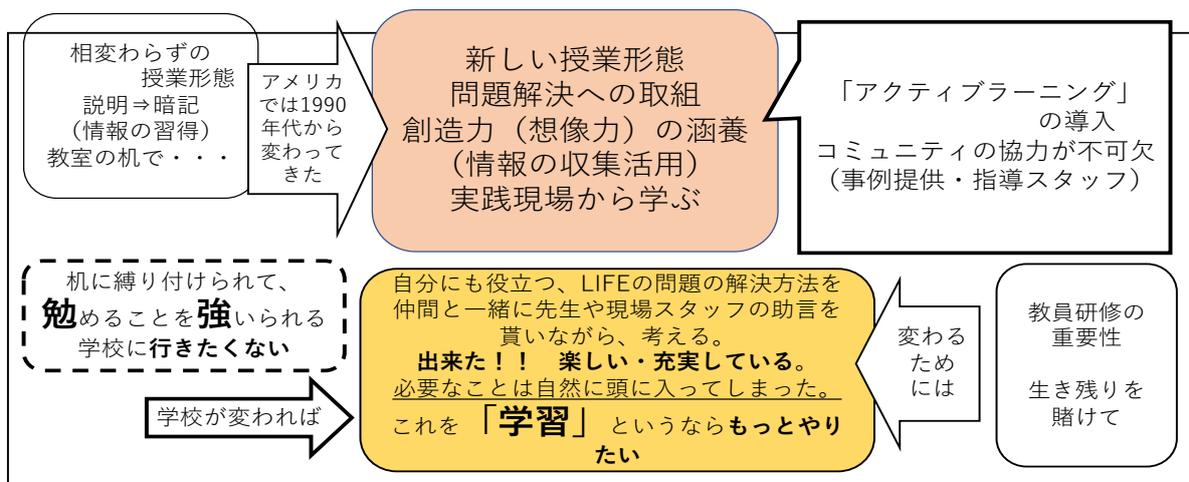
4-1 教員の心構え動指針

- 学習の主導権を学生に委ね 教員は協働学習の支援者を心がけましょう。
→自己決定を尊重することで、学生は学習活動に対して安心(安全)感を抱くことができます。
- 学生が学習習慣を身につけることを心がけましょう。
→介護福祉専門職としての学習習慣の涵養を目指します。
- 学生が表出する様々な言動を承認し 価値あるものとして受けとめましょう。
→学生の自己有用感が育まれることで自己肯定感が高まり、学生と教員との信頼関係が構築されます。
- 何があっても最後まで学生の学習活動を支える 信頼できる支援者であり続けましょう。
→教員(学校)は学生にとっての安全基地です。
- 学生の“失敗する権利”を奪わないように努めましょう。
→“転ぶ機会”を与えることで、“立ち上がる術を身につける機会”を与えることができます。但し、取り返しのつかない失敗を引き起こさないように、事前学習と学習環境を整えて見守ることが大切です。
- 現代的教育システムの導入をお勧めいたします。
→次項図をご参照ください。

9

伝統的教育システムから現代的教育システムへ

・・・遅れすぎている学習支援方法の展開・・・授業も「努力対成果」の見える化を



川廷宗之2018 10

4-2. 学生に対する教員の支援活動

(1) 9つの要点

- 体験学習をした学生が感じたことや気づいたこと、楽しさなどのポジティブな面を、積極的にフィードバックしましょう。
- 学生が持ち寄った内容により、参加型の授業へと発展させましょう。
- 課題解決に当たっては学生が「したいこと」中心ではなく、住民のニーズに合ったものとなるよう示唆しましょう。
- 学生が具体的で明確な「自発的活動のイメージ」を持つことができるようにフィードバックしましょう。
- 学生の学習活動が地域社会の人々への刺激となり双方向へ継続的なつながりがつくれるように支援しましょう。
- 学生の主体的活動を通じて地域福祉活動の素晴らしさや活動を広げるヒントと工夫を、学生が自ら考え、考察を深められるよう側面的な支援を行いましょう。
- 学生が、対象者の個々人が抱えているニーズは地域へ展開しないと解決できないということに気づくよう示唆しましょう。
- 人間観察結果における「何故」を収集し共有する機会と「何故」に気付いたことを褒める機会を設けましょう。
- 地域社会固有の文化や人間関係をできるだけ事前に確認し、活動に携わる地域住民に異国籍の学生を含め学生の発言や態度を受容的に受け止め接してもらえるよう働きかけを行っておきましょう。
- 学生が成功体験を積むことが見込める地域社会を選び、当地の社会福祉協議会やNPO法人等の協力を仰ぎましょう。

11

4-2. 学生に対する教員の支援活動

(2) 8つの示唆

- できるだけ多角的な視点（次元の違う視点）で捉えられるよう助言しましょう。
- 高齢者の困りごとは、個人の生活に起因するものと地域社会の環境要因によるものに分けられることを示唆し、その複雑性にも理解を促しましょう。
- 解決策は一様ではないことを示唆しましょう。
- 地域社会の特徴を見つけ出すことを示唆しましょう。
- 地域社会の課題を自分の事としてとらえることができるように、学生自身の体験などを参照しながら理解を促しましょう。
- 関係者からの声などを積極的に聴取し、学生の学習活動へ反映させましょう。
- 実行可能な計画作成をフォローしましょう。
- フィードバックや意識の変化について測定・評価しましょう。

12

4-2. 学生に対する教員の支援活動

(3) 4つの説明

- 各地の学習事例を学生に情報提供しましょう。
- 個人情報に対する守秘義務を説明しましょう。
- チャレンジ（学習教材-例示-）はあくまでも例示です。例示されている学習教材が当該地域にないことが想定できます。
- 例示に囚われることなく、学生や教員のアイデアを活かして自由に学習教材を創ってください。
- 社会情勢や当該地域の状況により、チャレンジ（学習教材）を選ぶ際に制限が生じることがあります。その際には、“できること”に焦点を当てて新たな意味づけや新たなアクションをどんどん導入し、柔軟に学習機会を創りましょう。

13

5. 学習教材（学生用ワークブック）について

5-1 学習目標

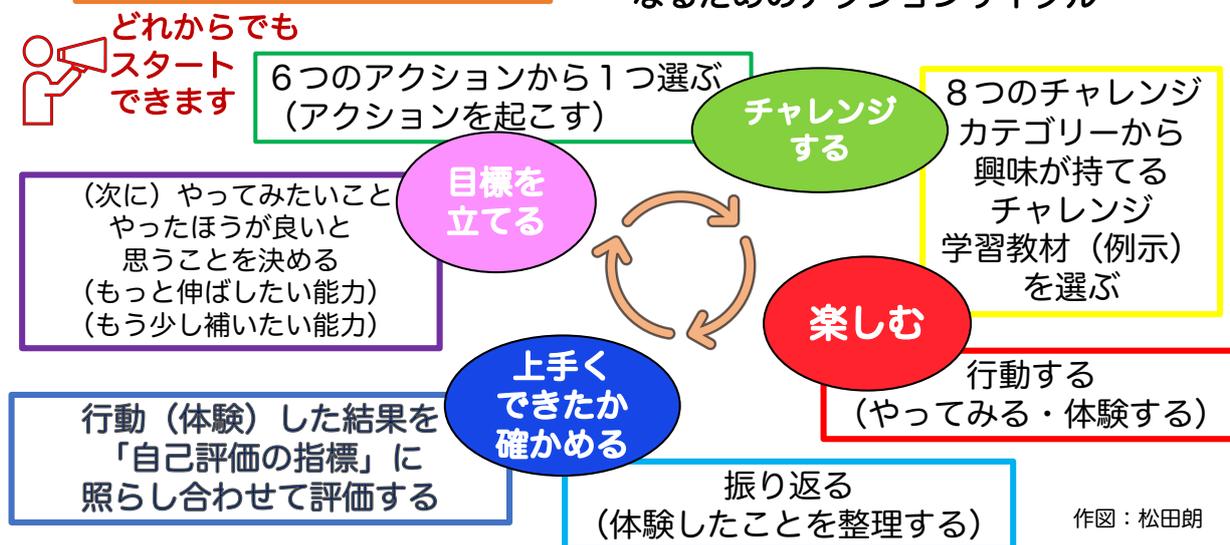
- 感じたり考えたりしたこととその理由（どこからそう思う？）を伝えることができる
- 楽しく会話（相手の話を聞く・自分の意見を言う）ができる
- 違う視点で観察ができ、意味づけができる
- バラバラのものを繋ぎ合わせ、一つの意味あるものを創ることができる
- 「とりあえずやってみる」ことができる
- 問題点を見つけ出し、そこから課題を設定できる

14

5-2 学習方法

(1) アクションサイクル

ジモトの一員となって活躍できる人になるためのアクションサイクル



15

5-2 学習方法

(2) アクションサイクルをまわす 望む結果を目指す



どれから始めても大丈夫です。



各項目にはワークシートが用意されています。ワークシートの記載は自己決定の過程です。学生の自主性が引き出されるよう一人ひとりの学生に応じた支援を心がけてください。



学校や教職員、当該地域の状況等で学生が個別に体験学習を進めることが困難な場合は、グループ単位やクラス単位での体験学習となることも差し支えありません。各校、各地域の実情に応じて柔軟に実施されることが望ましいです。

16

5-2 学習方法

(3) アクションサイクル 実用例 介護福祉士を目指す桃子さんのチャレンジ

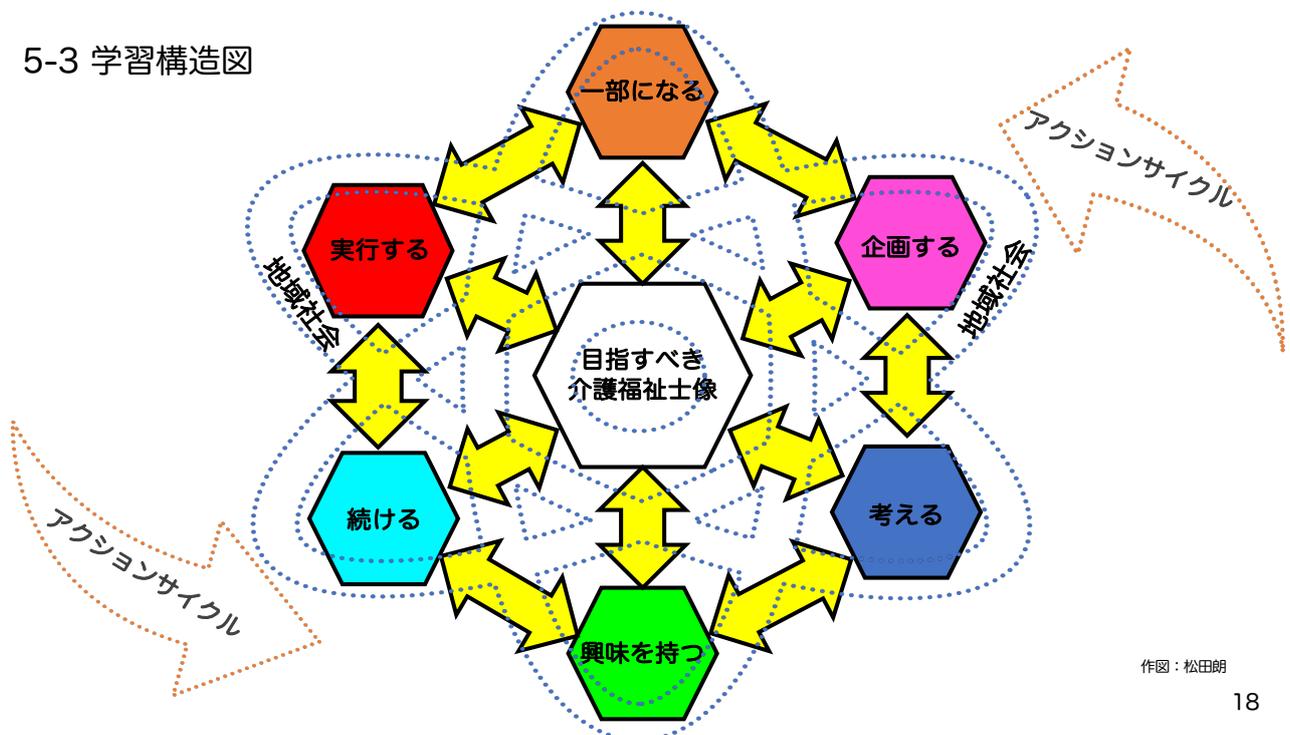
知らない人と会話するのが苦手な桃子さんは、コミュニケーションの授業を受けて知らない人とでも楽しく会話ができる介護福祉士になりたいと思いました。そこで、学校で習った「アクションサイクル」を早速試してみることにしました。

- 補いたい(改善したい)ことは ⇨ 「知らない人と楽しく会話ができない」 なんで会話できないんだろう・・・
- 課題は ⇨ 「何を話せばいいかわかるようになる」 何か話せることがあるとイイのかも！
- 目標は ⇨ 「頭に浮かんだことが話せる」 すぐに何か浮かぶようにするためには・・・
- アクションを選ぶ ⇨ 「興味を持つ(調べる・見つける)」かな？ 実はゲーム好きなんだよね(^^
- チャレンジを選ぶ ⇨ 「昔の遊び」「木の玩具づくり」 そういえば昔のゲームって・・・！(^^
- やってみる ⇨ ネットや図書館などで調べて実際に遊んでみた！ マジ楽しかった！
- 振り返る ⇨ 先生と話してて、やってみたことを得意の4コマ漫画にしてみた ちょ～ウケた！！
- 確かめる ⇨ 評価ルーブリックに照らし合わせてみたら「特にできる」だった！
スゴッ！ じゃああ～ 次のアクションは～”一部になる“ (交流する・参加する) にしヨ！！

このように アクションサイクルに当てはめて考えて 行動できるように支援します

17

5-3 学習構造図



作図：松田朗

18

5-4 6つのアクション領域とできるようになること

目指すべき介護福祉士像で掲げた5つの人物像を目指すために、「興味を持つ(調べる・見つける)」「一部になる(交流する・参加する)」「考える(想像する)」「企画する(創造する)」「行動する」「続ける(改善する)」の6つのアクション領域を設け、それぞれの領域別にできるようになること(能力)を表で表しました。まずは6つの中から一つの領域(目標)を選びます。

アクション領域	興味を持つ (調べる・見つける)	一部になる (交流する・参加する)	考える (想像する)	企画する (創造する)	実行する	続ける (改善する)
できるようになること	<ul style="list-style-type: none"> ・世代や国籍などを超えて楽しい会話ができる ・感性(美醜.善悪.快不快の判断基準)が磨かれる ・数字が表している意味を考えられるようになる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代や国籍などを超えて楽しい会話ができる ・感性が磨かれる ・状況に応じた適切な判断に基づく行動ができる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・考える道筋を立てることができる ・視点を動かして新たな意味づけができる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性が磨かれる ・新たな企画を提案できる ・新たな行動を始めることができる ・リーダーシップを発揮することができる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性が磨かれる ・状況に応じた適切な判断に基づく行動ができる ・リーダーシップを発揮することができる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた適切な判断に基づく行動ができる ・問題から課題を創り、目標を立てて行動できる 等

19

5-5 6つのアクション領域と達成課題

アクション領域	興味を持つ (調べる・見つける)	一部になる (交流する・参加する)	考える (想像する)	企画する (創造する)	実行する	続ける (改善する)
達成課題 (学習目標)	感じたり考えたりしたこととその理由(どこからそう思うか)を伝えることができる	楽しく会話ができる	違う視点で観察ができ意味づけができる	バラバラなものを繋ぎ合わせ、ひとつの意味あるものを創ることができる	“とりあえず” やってみることができる	問題点を見つけ出し課題を設定できる

20

5-6 チャレンジ（学習教材）～例示～

- (1) 8つのカテゴリーに整理されています。
- (2) 初めから各学習教材群に目を向けて選んでも良いのですが、興味のあるカテゴリーから具体的な教材へと段階的に目を向けることで学習教材を選択しやすくなります。
- (3) 以下の教材群に含まれていないものでも学習教材として用いることができます。学生と一緒に教材創りから行うこともオススメです。
- (4) 学習教材は一つの目標に対していくつ活用しても良いですが、個々の学生に見合った数になるよう教員は支援をしてください。

チャレンジ（学習教材）～例示～ カテゴリー

- | | |
|------------------|-----------------|
| A・・・地域で暮らす人・働く人 | B・・・国際交流・異世代交流 |
| C・・・歴史・伝統・文化・慣習 | D・・・防犯・防災・美化・清掃 |
| E・・・芸能・イベント・情報発信 | F・・・手伝う・支える |
| G・・・習う・学ぶ | H・・・健康・予防 |

21

アクション領域	興味を持つ (調べる・見つける)	一部になる (交流する・参加する)	考える (想像する)	企画する (創造する)	実行する	続ける (改善する)
該当する養成カリキュラムの領域	「人間と社会」「介護」「こことからだのしくみ」「医療的ケア」	「人間と社会」「介護」「医療的ケア」	「人間と社会」「介護」「こことからだのしくみ」「医療的ケア」	「人間と社会」「介護」「医療的ケア」	「人間と社会」「介護」「医療的ケア」	「人間と社会」「介護」「こことからだのしくみ」「医療的ケア」
チャレンジ 学習教材 ～例示～	↓	↓	↓	↓	↓	↓
カテゴリーA：地域で暮らす人・働く人						
祖父母の生活	○	○	○		○	○
自治会長の生活	○	○	○		○	○
留学生の生活	○	○	○		○	○
高齢者の生活体験	○	○	○		○	
先輩の仕事	○		○		○	
スマホ普及率(活用率)調査	○	○	○	○	○	
高齢者の社会生活	○	○	○	○	○	○
障害児者の社会生活	○	○	○	○	○	○
個人史本製作	○	○	○	○	○	
就活		○	○	○	○	○
終活	○	○	○	○	○	

22

5-7 達成課題に対する自己評価の指標（評価ルーブリック）

達成課題	特にできる	できる	最低限できる	努力が必要
感じたり考えたりしたこととその理由を伝えることができる	感じたり考えたりしてわかった(気づいた)ことを図で伝えることができる	感じたり考えたりしてわかった(気づいた)ことを言葉と文字で伝えることができる	感じたり考えたりしたことで理由を言葉と文字で伝えることができる	感じたり考えたりしたことで理由を言葉と文字で伝えることができない
楽しく会話ができる	複数のジモトの人と楽しく会話ができる	ジモトの人2人以上とグループで名前を呼び合いながら会話ができる	ジモトの人と1対1で会話ができる	ジモトの人に挨拶はできる
違う視点で観察ができ意味づけができる	違う視点で観察した事柄から問題点に気づき報告できる	観察したこととその意味と根拠を報告できる	観察したことをそのまま報告できる	観察したことを報告できない
バラバラになっているものを繋ぎ合わせる意味のあるものを創ることができる	ひと繋がりものをバラバラに分解して別の意味あるものに創り替えることができる	バラバラになっているものをつなぎ合わせて意味あるものを創ることができる	ひと繋がりものをバラバラに分解できる	ひと繋がりものをバラバラに分解できない
「とりあえずやってみる」ことができる	不安が先立つことなどに積極的に取り組める	意欲を持って取り組める	やるだけはやっている	不安や怖さが先に立ってできない、或いはやる気がない
問題点を見つけ出し課題を設定できる	現実と理想の差異を無くすために目指すことを記録できる	現実と理想の差異を具体的に記録できる	今起きていることを客観的な視点で記録できる	今起きていることを客観的な視点で記録できない
得点	10点	7点	5点	3点

23

5-8 成績のつけ方

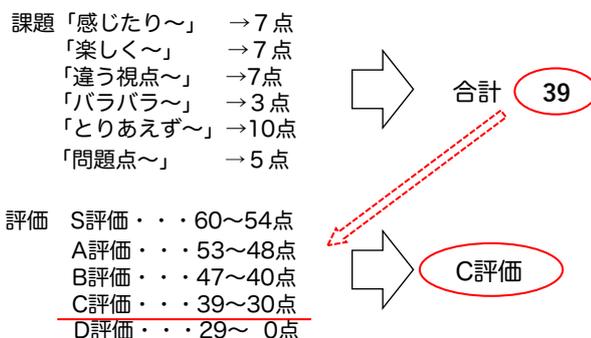
ルーブリックとは、当てはまるマスを選ぶための表です。

各課題ごとにアクションの結果に最も近いマスに印を付け、評価に該当する得点を加算します。

ルーブリック評価に基づいて採点する場合の一例です。

各達成課題の得点を合計した結果に基づき、以下のように評価をします。

上記の達成課題は6つ。それぞれの得点（10点～3点）を合計します。



※必ず採点をしなければならないということではありません。

24

6. 全学生共通の課題

『自ら進んで地域社会に入っていける』

自己有用感を育み 自己肯定感を高める (自己評価を改める)

6-1 全学生共通の学習目標 (“はじめの一步”)

- (1)楽しく会話（相手の話を聞く・自分の意見を言う）ができる
- (2)とりあえずやってみる（初めての体験ができる）
- (3)観察ができる

学生は3つの目標のうちの一つを選んでも良いし全てを選んでも良いですが、
教員は、学生が**実現可能な目標設定ができるように支援**をしてください。

25

6-2 全学生に共通の課題 “はじめの一步” 自己評価の指標（評価ルーブリック）

課題 \ 評価	特にできる	できる	最低限できる	努力が必要
楽しく会話ができる	複数のジモトの人を相手に楽しく会話ができる	ジモトの人が2人以上いるグループで名前を呼びながら会話ができる	ジモトの人と1対1で会話ができる	ジモトの人に挨拶はできる
とりあえずやってみる（初めての体験ができる）	不安が先立つことなどに積極的に取り組める	意欲を持って取り組める	やるだけはやってみる	不安や怖さが先に立ってできない、或いはやる気がない
観察ができる	観察した事柄から問題点に気づき報告できる	観察したこととその意味と根拠を報告できる	観察したことをそのまま報告できる	観察したことを報告できない
得点	10点	7点	5点	3点

成績：3つの課題の得点の合計点により5段階評価をいたします。

※必ず採点をしなければならないということではありません。

S評価 …… 30～27点

A評価 …… 26～24点

B評価 …… 23～21点

C評価 …… 20～15点

D評価 …… 14～ 0点

26

6-3 学習の楽しみ方(学習支援例)

いつも学校でかかわる友だちや先生たちとは違う大人や子どもたちとの交流が始まります。少しドキドキしますが、地域の人たちは皆さんが来てくれることを楽しみにしています。学生の皆さんも少しの緊張感とたくさんの好奇心をもって地域に入ってみてください。

好奇心をもつために・・・

- ・知らないことがあったら取りあえず聞いて（調べて）みましょう。
- ・知っていることだと思っても、もう一步「どうして・なんで」など深く掘り下げてみましょう。
新たな一面に気づくかもしれません。
- ・「誰かがやってくれる」ではなく、自分でやってみましょう。躊躇しないでチャレンジしてみましょう。
- ・活動について周囲の人に話してみましょう。伝えることで自分の取り組みを振り返ることもなります。
- ・活動の記録を残しましょう。
- ・写真撮影などの個人情報やプライバシーの扱いに関係する事柄は必ず許可をいただきます。

27

少しの緊張感を持ちましょう・・・

地域活動では学校外の場所や、関係者とかかわることになります。外に出れば一人の学生も学校を代表する人になります。地域の人に見られているという緊張感をもって取り組みましょう。

- ・自分から挨拶をしましょう。
- ・笑顔を心掛けましょう。
- ・言葉遣いに気をつけましょう。
- ・室内に入るときには帽子をとり、上着を脱ぎましょう。
- ・活動に合わせた服装を心がけましょう。
- ・約束（時間）を守りましょう。約束を守ることは人間関係の基本です。
- ・活動中は対象者の様子観察を必ずしましょう。
- ・対象者に心身面で無理な負担がかからないように気をつけましょう。
- ・貴重な体験の機会を逃さぬよう、学生同士でかたまらないように心掛けましょう。
- ・積極的に（気軽に）質問しましょう。知らないことは恥ずかしいことではありません。
- ・率先して活動に入りましょう。
- ・声かけや対応を丁寧に行いましょう。必ず一声かけてから動きましょう。
- ・健康管理を心がけましょう。

28

付録（別紙）

ワークシート①～⑨

- ①自分を知ろう！
- ②アクション(目標)を設定しよう！（課題を決めよう！）
- ③チャレンジ(教材)を選ぼう！
- ④評価(自己評価)をしよう！～”はじめの一步“編～
- ⑤周りの人の感想を聞いてみよう！～”はじめの一步“編～
- ⑥評価(自己評価)をしよう！
- ⑦周りの人の感想を聞いてみよう！
- ⑧学習の記録
- ⑨ジョハリの窓（自分自身を客観的に観てみよう！）

2020年度 文部科学省 専修学校による地域産業中核的人材養成事業
地域活動による高齢者支援・介護支援の学習プログラムの研究開発事業

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター（事業責任者 川廷宗之）

発行年月日 令和3年3月1日

発行 川廷 宗之

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-16-6

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター

電話 03-3200-9074 FAX 03-3200-9088